

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0006 名古屋市中区葵 1-27-32 カイフビル 7階

HD ニュース

No.20
2014.8.15

今後の予定／於：事務局会議室

8月19日(火)18:00～ 相談委員会

8月19日(火)19:00～ 研修会

8月21日(木)18:30～ 木造技術研究会

8月26日(火)19:00～ 役員会

9月9日(火)19:00～ 理事会

9月16日(火)18:00～ マンション大規模修繕研究会

終戦の日に思う

理事長 滝井幹夫

今年も終戦の日を迎えました。

私自身は幼く直接戦争の記憶は有りませんが、終戦直前まで瑞穂高校の隣りに住み、父は三菱飛行機製造に勤めていました。戦況が不利になるに従って頻りに空襲を受けるようになって、工場疎開に合わせて家族も山梨の父の実家方へ疎開することになりました。

疎開して5日後に終戦を迎えました。しかし戦争の怖さ悲惨さがトラウマになった父は名古屋へ戻る事が出来ずに失職。田舎で納戸一室の間借り生活が始まりました。

父は、田畑・財産を持たない我が家の生活を支えるために慣れない仕事を必死に続けましたが、妻と

男子5人を残して40代半ばで急死しました。

私は中学卒業後、家を離れ紆余曲折を経て今を迎えています。父母の経験を聞いたり、その後の生活苦から、戦争は絶対繰り返してはならないと心に誓っています。

今、歴代の政府見解を覆す憲法解釈が行われ、集団的自衛権行使が推められていますが、これに対して全国全ての弁護士会や宗教界等の多くが反対の声をあげています。

私は思想・信条に関わらず立憲主義・国民主権の立場から、少なくとも国民の信を問うことを経ないやり方には反対しなければと思います。

建築のラビリンス再探訪 1

副理事長 新野修一

建築構造の変化は凄まじいと思っていたが、本質は変わらない。

今から40年以上前に大学で使った構造力学の教科書が段ボール箱から出てきた。「建造力学」というタイトルで著者は谷口忠氏である。昭和19年に第1版が発行され、昭和31年に全訂発行されている。昭和45年に発行された第26版を使用していた。全訂版序によると、初版時には「あらかじめ応用力学、工業力学、材料力学の書を学んだ後に構造力学を学ばねばならず、その上それらの書は高等数学を習得した後でなければ理解できず不便であり長い年月を費やせねば役に立たぬうらみがあった」そうで、全訂版は「建築に必要な力学書を書きたい」との思いでまとめられた556頁の大書となった。定価¥1,400とある。何と箱入だ。アマゾンでは中古品で¥1,372と¥5,979で出品されていた。今なら文字も大きく2分冊で一冊¥4,000程度だろうか。学生時代に教科書の半分程度読んだ形跡があった。真面目だったか不

真面目か今ではどちらでもよいが、目次を見ると興味深い。初版では静定構造物に力がそそがれており、全訂版で不静定構造物の充実を図ったようである。とは言え、弾性論とその応用が中心で、エネルギー保存の法則やカスチリアーノの原理や仮想仕事（「仮想動」と記載）の原理等も解説されており、ラーメンやトラスの解法で用いられている。これらの頁数は50頁ほどであろうか。今日の教科書としてみても、応用が若干物足りない部分を除けば充実した内容である。ただし塑性論は扱われていない。最近の構造関連の書物を見ると、ハウツーものは別にして、難易度の高い部分の説明に工夫が見られ、学習する側にも学ぶ覚悟を求めているように思う。数学や物理学の知見を参考に本質を付加し、より理解を深めて欲しい著者の熱意を感じる。建築は工学で、その根拠は数学や物理学に置く。設計は実学であり、具体的であり、前提条件のもとで解を得る。しかし、コンピューターを用いた構造解析はブラックボックス

となり、パソコンお任せのパソコン信者の構造設計者も散見する。建築構造の本質に変わりはなく、新たな設計の道具が出現したものの、設計者に求められるものが建築の本質とクライアントの希求するも

のを見誤らない眼力であることに変わりはない。道具に遊ばれず、実学を極めたいと思う。

学びは果てず、数学や物理学の織り成す建築のラビリンスを彷徨うことを楽しみたい。

一般市民向け欠陥住宅予防セミナーについて

相談委員会委員長 瀬瀬 誠

去る7月13日に、NPO法人欠陥住宅をつくらない住宅設計者の会と欠陥住宅被害東海ネットの共催による、一般市民向けの「欠陥住宅予防セミナーと無料相談会」が名古屋都市センターで開催されました。

これは、欠陥住宅被害全国連絡協議会(※1)が毎年7月初旬に全国一斉に開催している「欠陥住宅110番」という無料電話相談に併せて、先の二つの会独自でこの地域向けに開催したものです。

このセミナーが開催された経緯は、110番での相談内容が、建築主がもう少し慎重であれば、もう少し建築業界に関する知識があれば、また、もう少し契約など法的知識を有していれば防げたものではないかという事例が多いことから、家を建てる前に最低限知っておくべきことを学んでいただき、自身を欠陥住宅の被害者にならないようにしていただくとするものです。また、110番での限られた相談時間では、相談者に対して必ずしも十分な回答ができていないという問題もあり、同時に無料相談会も開催して、心置きなく相談していただくこととしました。そのために、司法記者クラブ・県政記者クラブに赴き、新聞にセミナー開催の記事を掲載していただくようお願いもしました。結果、セミナーと相談会は、資料代として一人1,000円を頂いたにも関わらず、多数の参加者や相談者があり、成功裏に終えることができました。中には、「建築士に住

宅の設計を依頼したいと考えているが、全く宛がなく、今日、建築士の会員名簿をいただいたのが一番の収穫であった。」などと言われた方もありました

このことから、建築士に直接相談したい或いは設計を依頼したいが誰に依頼したら良いか分からないというような人が相当数おられるものと考えます。



そのような人達が、相談先が分からないまま、やむを得ずハウスメーカーのモデルハウスに走ってしまうようなことを看過することはできません。

当会においても、ただ単に電話相談だけに留まらず、積極的にこのようなセミナーや相談会を開催するようにしたいと考えており、会員各位の協力をお願いする次第であります。

※1:欠陥住宅被害全国連絡協議会(略称「欠陥住宅全国ネット」)

欠陥住宅被害の救済と予防を目的に、欠陥住宅被害東海ネットなど12の地域ネットで構成されている、弁護士・建築士・研究者・市民による全国組織。

■マンション大規模修繕研究会 7/15 18:00~19:00
ヴェルクレート日比野大規模修繕コンサル業務の見積もり提出について/4社中2番で落選。

■技術研修会 7/15 19:00~21:00
『土のうを使って建物の縦揺れを減衰T-BAG減震工法』講師/株タケウチ建設 竹内謹治氏

■木造技術研究会 7/17 20:30
研修旅行について[11/9(日)・10(月) 奈良/吉野、和歌山/高野山・熊野、三重/三重大レーモンドホール]。「フラット35対応 木造住宅工事仕様書」読み合わせ。